

科学技術政策担当大臣等政務三役と  
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合  
議事概要

- 日 時 平成27年7月2日（木）9：58～10：26
- 場 所 中央合同庁舎8号館 6階623会議室
- 出席者 平副大臣、松本政務官、原山議員、内山田議員、小谷議員、  
中西議員、橋本議員、平野議員、大西議員  
阪本内閣府審議官、森本統括官、中西審議官、中川審議官  
星野参事官、田沼企画官

○議事概要

○原山議員 おはようございます。科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を開催させていただきます。

本日は、山口大臣と久間さんが御欠席でございます。

議題2つ用意しております。「研究開発法人の機能強化」について」と「自動走行の取組状況について」ということで、本日、公開ということで進めさせていただきましたが、よろしいでしょうか。

では、プレスお願いいたします。

(プレス入室)

課題1. 「研究開発法人の機能強化」について

○原山議員 では、早速でございます、先日、閣議決定されました「科学技術イノベーション総合戦略2015」の中にも言及されておりますが、研究開発法人の機能強化ということについて具体的なアクションについて事務局のほうから説明させていただきます。議題1でございます。星野さんからお願いいたします。

<星野参事官より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

「総合戦略2015」に書かれたことを実装していくというフェーズに移り、具体的にどうするかというやり方そのものと、既に一步踏み込んでいますので、その御報告ということでございます。

これは、本日、研究開発法人についてやりますが、ほかのチャプターに関しましても、今後このような形で進め方をシェアさせていただきます。

これに関しまして御意見、御質問などございましたら承りますが、いかがでしょうか。

どのぐらいの頻度でやっていくつもりでしょうか。

○星野参事官 当分は、月に1回ぐらいを考えてございます。

○原山議員 そこでの議論のある種のとまったところで、木曜会議にまた報告していただくというやり方を考えております。

いかがでしょうか。

特段ございませんでしたら、これをもちまして議題1を終了させていただきます。ありがとうございました。

## 課題2. 「自動走行の取組状況について」について

続きまして、議題2です。「自動走行の取組状況について」、田沼さんのほうから御説明いただきます。お願いいたします。

<田沼企画官より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

本件に関しまして御質問、何かコメントいただければ。

自動走行、S I Pでずっとこれまでやってきたんですけども、S I Pだけじゃなくて様々な戦略の中にもこのテーマがあって、それとの整合性をどういうふうにとっていくか、それから全体像としてどういうふうハンドリングしていくかというのが、また様々な司令塔が存在する中でという話なんですね、これも例外ではないということで。そのために調整の役割としてこういう会議体を、これは本当に短期間でもって、予算準備に向けてという形でやっていく

ということなんですけれども、でも、この先も予算だけではなくて、実際に行動をとるときにどういうふうな形でもってハンドリングしていくかというのが多分鍵になると思うんですね。それも一緒にここで議論するか、それともこれは7月で概算要求に向けた準備で終わりという感じですか。

○田沼企画官 そういったところも含めて当然検討していきたいというふうに考えているところなんですけれども、基本的には、S I Pの場といいますのは、やはり研究開発だけではなくて、それをいかに世の中に展開していくかということろまで含めて俯瞰しながら進めていくということがございますので、基本的にはこの場はあくまでも短期的に来年度に向けてこういったことをやっていくかということを経力的に詰めていく場ということなんですけれども、では、それをどのように来年度、実際運営していくかということにつきましては、恐らくS I Pの推進委員会とかそういった場が活用されるということになるろうかと思っております。

○原山議員 どうぞ。

○大西議員 S I Pが始まる前にI T Sは総合科学技術会議の下で研究開発が行われてきたと思うんですが、そのときの枠組みと今回の府省連絡会議というのは大体同じもの——ざっと省庁を見ると重なっているようですけど、同じものなんですか。少しレベルが違うとか、何かその違いがあるんですか。

○田沼企画官 そういう意味では、この1カ月で短期間ではございますけれども、こういった形で概算要求に向けて会合を設けてということは実質的に初めてに近いのではないかと思います。これまでは、最後に御説明しました官民I T S構想、これは例年、I T戦略の一部として策定されるI T Sについての戦略ですが、それに向けて各省の施策というものを調整していくといったことが行われていたんですけれども今回の……

○大西議員 参加者は大体似たような感じなんですかね。S I Pでちょっと別な仕組みになったのもう一回省庁の枠組みというのが再形成されたというふうに考えればいいんですか、それとも少し違うものなんですか。

○田沼企画官 基本的にはプレイヤーといいますか関係省庁は変わっておりません。というか、徐々にですけれども、関係する方が少し増えているというのが実態です。S I Pをこの1年間実施しているということですが、連携についてはやはり会議もかなり頻繁に開かれていることもございまして、連携の度合いというのは非常に深まってきているのかなというのが正直な印象です。

○大西議員 今おっしゃった増えているというのは、例えば公共交通に、今までITSはどちらかという自動車だったと思うんですけど、公共交通のところに少し膨らんできているという幅が広がったと、そういうふうを考えればいいんですかね。

○田沼企画官 はい、そこは御理解のとおりで結構かと思います。昨年度、このSIPを立ち上げるに当たって研究計画をつくりましたけれども、その中の出口の一つとして、やはり2020年のオリンピックに向けた対応というのは必要だろうということで出てきたのがこの公共交通システムの取組ということでございますので、そういう意味では、これまでになかった取組だというふうに言えると思います。

○原山議員 よろしいですか。

なかなか難しいのは、SIPの枠組みの中と、また外のところとのなかなかボーダーが見えづらくなってきていて、と同時に、ある種の外があるのであれば、そことどういうふうに同調をしていくかということですが、トランザクションコストが増えていくような気がして、それは避けなくちゃいけないことですし、会議体もどんどん増えちゃう傾向があるので、その辺は最小限の会議体でやることを……はい。

○平副大臣 私は、科技とITと併せて地方創生と国家戦略特区も担当しているんですが、この近未来技術実証特区というのは私の発案で始まっていて、国家戦略特区がアベノミクス第三の矢だという割にはちょっと目に見えにくい。例えば、農業生産法人の要件緩和とか一般の人には分かりにくいところを多くやっているものですから、少し見える化をしようということです。やはりわくわく感がないとなかなか国民の関心も得られないということで、ドローンと自動運転と遠隔医療、遠隔教育を象徴的なものとして挙げさせてもらいました。

その中で、ドローン特区として秋田の仙北市の指定を決定しましたが、自動運転も今、仙台市と愛知県指定を決定しています。国家戦略なので、それは当然、科技とかITと連携をしなければだめですよねというのがまず一つと、あと2つ目は、やはり地方創生の観点からも特区を指定していこうということで、過疎化とかが進んでいるところのサービスをドローンとか遠隔医療とか遠隔教育とか自動運転を使ってどうやって諸課題を解決できるかという考えを持ちながら指定をしていこうと思っています。

この特区は、科学技術そのものも大事なんですが、それが当たり前の世の中になったときに、例えば薬事法とか医師法とか道路交通法とか電波法とか航空法とかいろいろな規制が障壁になりますので、そういうものを前もっていろいろ場を提供して実証実験をしていただく中で

リストアップをして、先回りをしながら規制改革の交渉をしていこうというものです。これを大学とか民間事業者がやると、規制省庁の対応が冷たいんです。それを私が副大臣で小泉進次郎さんが政務官になるので、皆さんにかわって私たちが規制省庁と交渉しますよという枠組みで公募をしているということなんです。ですから、そういう文脈の中で、国家戦略特区のところはスピード感があるのと突破力が強いので進んでいくと思います。そういった中で科学技術とかITとか、今の積み上げがあるところとしっかり連携をしてやっていこうということです。たまたま私が今、副大臣を兼務しているのでもいいのですが、私が外れた後に、またこの縦のラインが変わった瞬間にいつものことが起きるので、その連携を今のうちにしっかり考えていただきたいということでございます。

あともう一つだけ、12ページ一番下のポツで、国際条約改正の議論というのがあるんですが、レベル4を目指していきましょうということ、運転をする人がいない状況を最初から視野に入れましょうということで、そうすると、ジュネーブ条約とか国際条約があるらしくて、そこら辺のルールづくりもやはり日本が主導してできないかという問題意識を持って今取り組んでいるということでございます。ですから、ちょっと関係者が増えたのは、そういう流れの中で省庁の担当が増えたということです。

○原山議員 ありがとうございます。

では、中川さん。

○中川審議官 今、副大臣からお話があったとおりなんですが、これを全体の施策の一つとして私ども実感を持って思うのは、例えばSIPの自動走行について言えば、これまでも御案内のあったとおり、既にこの総合科学技術・イノベーション会議とIT本部というのは、従前から連携をして、SIPを推進してまいりました。一方、今、副大臣のお話にもございましたように、この2016年度に向けた予算要求といったときに、安倍内閣の喫緊の課題として、この自動走行というものに、今2ページにございますように、総合戦略、再興戦略、官民ITS構想、更に近未来技術実証特区、副大臣のイニシアチブの、こういったものを総合的にぼんと併せて全体として政府として取り組んでいこうという、このこと自体は大変いいことだと思っております。まさに重要だからこそ、全ての戦略にこういうふうに書かれるわけでありませう。

問題は、こういうものをやっているときに、関係省庁からすると、あちこちの司令塔からあれこれいわれて、一体どこを向けばいいんだというようなことがよく指摘されます。それで司令塔連携というようなことで、第5期基本計画の検討に際しても、そういう一般論としてはここに関係の本部に来ていただいてヒアリング等もやったわけですが、実際各省が予算要求するというに場面にな

ったときに、来年の2016年度をどういうふうに要求するんだと、各省の立場に立ってみると、一番ありがたいのは、やはりそれぞれの司令塔はそれぞれの立場から取り組んでおりますので、具体的な予算要求にあたっては、それら司令塔が一緒に集まってきて、一緒の方向に向かって、我々は科学技術から社会実装すると見ていますし、IT本部はまず現在の実装というところを見ていますし、特区は特区という観点で、それらが、一緒に合わせて予算要求に結びつける、これがやはり各省から見てぜひやってほしいということだというのが、非常によくわかりました。

その意味では、この各省連絡会議を7月中旬までにやるというこのアプローチは、あたかも司令塔が乱立して何かおかしいんじゃないかということに対する一つのトライアルということで、こうして司令塔側も一堂に集いますので、そういたしますと、今、副大臣という個人のもとに一堂が集うというのだけでなく、組織としてこういう一つでやってみるという意味で、司令塔連携の一般論とは違って、こういう具体的な取組として非常にいい取組になるのではないかというふうに考えているところでございます。

○原山議員 よろしいでしょうか。

では、議題2をこれをもちまして終了させていただきます。ありがとうございました。

以上